

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	衣料品専門店（経営者）	・来客数が増加していることに加え、客の商品の選び方も変化してきており、カジュアルウェアなどの軽衣料は順調に推移している。スーツなどの重衣料は、気温や流行にも左右されるが、現状からみると相当良くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・各社が新型車を相次いで発表しており、ユーザーの購買意欲も増してきている。当社も11月末に新型車が投入されるため、販売台数は伸びる。
		通信会社（営業担当）	・ボーナスに合わせ新商品を発売する予定であり、今よりは良くなる。
		観光名所（経営者）	・オフシーズンに入るにもかかわらず、前年より予約数が増加している。
		ゴルフ場（従業員）	・来場者の動向、予約状況から判断すると、良い傾向にある。客単価も思ったほど下落せず、売上も確保できている。
	変わらない	商店街（代表者）	・来街者から購買意欲が全く感じられない。
		商店街（代表者）	・当商店街では、11月に大型ドラッグストアが、また、年末に向けて空き店舗が2、3軒開店予定である。客の動向は、冬物商品、特にクリスマス、冬物衣料の動向にもよるが、現在の客の動きを見ると、それほど消費に結び付くとは思えない。
		百貨店（売場主任）	・現時点でやや良くなる傾向にあるが、一気に回復するという動きでは無く、やや良くなるという状況が続く。
		百貨店（総務担当）	・ベビー用品や婦人服等に、今までなかったようなまとめ買いの動きがみられる。しかし、全体的には依然として慎重な購買動向は変わらない。
		百貨店（営業担当）	・客との会話の中で、いろいろな商品を勧めても、景気が悪いというような言葉しか返ってこない。
		百貨店（営業担当）	・売上、来客数はほぼ前年並みで推移し、前年のセールの反動を除くと、商品によりばらつきはあるものの、売上件数は前年比プラスとなった。しかし、売れ筋商品及び食品などは、当用買いに終始している。
		スーパー（企画担当）	・不要不急のものは買い控えをしており、商品単価が下げ止まらない。
		コンビニ（店長）	・今月の売上は対前年比5%減少している。昨年から年間を通して前年割れしており、売上の減少は続いている。年末年始にかけて特売の計画をしているが、客の慎重な買い方を見ていると期待できない。
		家電量販店（店長）	・従来の電化製品では伸びは期待できないが、液晶テレビ、プラズマテレビ等の新しい商品の動きは良くなる。
		乗用車販売店（管理担当）	・積極的に車を購入したいという話がほとんどない。
		一般レストラン（経営者）	・イベント開催時以外は、夕方になると人の流れが全くなってしまうというパターンができつつある。
タクシー運転手	・忘年会、新年会シーズンを迎えるが、客の話からは、会社やグループでそうした宴会を開くとの声が少ない。		
住宅販売会社（従業員）	・住宅ローン金利が上がっても客の動きに変化がなく、今後も特に変わらない。		
やや悪くなる	スーパー（店長）	・客単価、来客数の減少に加え、来店回数も減少してきている。	
悪くなる	一般小売店〔乾物〕（店員）	・12月に大型店舗ができるため、当店にとっては年末商戦に向け大きな影響がある。	
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		化学工業（販売担当）	・どの業種においても、荷動きが活発になっている。特に家庭紙業、製麺業の荷動きが活発であり、年末まで現在のプラント稼働状況が続く。
		通信業（営業担当）	・スーパーマーケットでは、少し高くてもおいしい食材が売れるようになってきたとの声をよく聞くため、今後やや良くなる。
		不動産業（経営者）	・当社が企画している分譲マンションに対する客の反響は予想以上であった。このことから、客の心理はやや良くなっていく。
公認会計士	・取引先との会話の中で、明るい兆しを感じている。特にタクシー会社の売上が、前月比で若干増加していることに非常に好感を持っている。		

変わらない	一般機械器具製造業（経理担当）	・小型クレーンについては、排ガス規制の特需により、前年を上回る受注になっている。大型、中型クレーンについてはチャーター料金の低減が続いており、本格回復とは言いがたく、商品によって格差がみられる。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・官公庁の入札は、以前に増して低価格化している。また、競合先の大手メーカーは合併後、再度分社化されるなど、業界の厳しさを感じている。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・現在は豊富な受注量を抱えているが、先行きの受注が入っていない。このことから、景気が回復したとは感じ取れない。	
	建設業（総務担当）	・病院の新規開業、増改築の引き合いが出てきており、受注量の増加が見込まれる。しかし、金額的には厳しく、採算面での向上はあまり期待できない。	
	輸送業（総務担当）	・荷動きが良くないことに加え、10月からスピードリミッターの取付けや首都圏における排ガス規制など、環境に関する規制強化によりコストアップを強いられている。こうしたことから経費を切り詰めている状況であり、当分の間景気回復は見込めない。	
	金融業（融資担当）	・各取引先ともリストラを進めているが、売上の減少にリストラが追いつかない状況である。	
	広告代理店（経営者）	・流通関係などの得意先から、売上の下げ止まりの話聞くようになったが、広告費は依然として低調な傾向である。	
やや悪くなる	木材木製品製造業（経営者）	・8月頃から前年比で住宅着工件数が下回っていることから、年明けから受注量は落ち込む。	
悪くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・このまま円高が続けば、競争力が低下し、生産量の減少を招くおそれ強い。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（従業員）	・例年の求人数、求職者数に戻りつつあるように感じていたが、足踏み状態のように感じるため、今後も変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規求職者のうち、雇用保険受給者が15か月ぶりに前年比で増加に転じたが、これは、自己都合による離職者が増加したことによる。
		職業安定所（職員）	・パートを含む有効求人倍率は0.56倍と、3か月連続で改善した。しかし、新規求職者が前年同月比で1割増となっていることや、求人条件面での低下傾向が顕著であり、雇用面での厳しさは続く。
	やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-	